第三者意見

関西大学
社会安全学部　教授
土田　昭司 様

NEXCO西日本グループレポート2020では、昨今多発している集中豪雨による災害対応、道路構造物の大規模更新など、写真・イラスト等を用いて、ステークホルダーにわかりやすく高速道路の安全・安心への取り組みが示されている。

2020年は社会環境に変革をもたらした大きな出来事として、新型コロナウイルス（Covid-19）感染症の世界的な流行があげられる。政府・自治体は、県境をまたぐ往来の自粛など国民に高度な自粛生活を要請し、現在、自粛要請は新たな感染者数の減少などに応じて緩和されつつある。今後2年程度以上はかかるであろうワクチンの開発・普及を踏まえれば、長期間の自粛生活により、国民の生活様式に少なからざる変化をもたらすものと考えられる。

勤労の場では、テレワークの進展や印鑑主義の廃止などを伴いながら出社しなくてもよい就業形態が広まり、会議・打ち合わせのための出張が減少してゆくであろう。私生活においても、例えば遠方の親戚との法事などはネットで出席できるようになるかもしれない。レジャーでは、バーチャルリアリティ（仮想現実）による高品質の疑似体験の提供が進めば、高齢者や子どもを中心に遠距離への旅行が減少すると考えられる。他方で、ネットによる購買形態が進展することによって近距離の小口物流のみならず、ネット店舗が基本的に広域に分布していることから長距離の小口物流が増大すると考えられる。

このような生活様式の変化は未来学として以前から指摘されてきたものではあるが、あたかも戦争が船舶、航空機、コンピュータの発達を大きく加速させた歴史と同じように、新型コロナウイルス感染症流行がその実現を加速させるように思われる。

高速道路にとっては、このような生活様式の変化は物流の増加と人の移動の減少として現れると推測される。新名神高速道路の6車線化による物流の自動運転化に向けた環境整備が進められており、遠くない将来に高速道路はトラックすべてを鉄道のごとく中央制御するようになる可能性もある。一方で、人は必要であるから高速道路で移動することよりも、高速道路で移動する楽しみを求めて利用するようになるであろう。SA・PAでの非日常の体験や高速道路の確実なメンテナンスにより、楽しく安全に利用できる高速道路であることがより一層求められており、これらが今後のNEXCO西日本グループの成長の要になるだろう。

第三者意見をうけて

代表取締役
専務執行役員
芝村　善治

今年度の第三者意見は、関西大学社会安全学部教授の土田昭司様からいただきました。貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の急速な蔓延により、都道府県を跨ぐ移動の自粛がなされ、交通量が大幅に減少しました。これにより、料金収入やSA・PAの売り上げは、大幅な落ち込みとなり、さらに「新しい生活様式」などの取り組みにより、交通量が以前の水準に戻るまでには、相当程度の時間がかかるものと考えています。

また、物流の増加については、ダブル連結トラックの利用促進に向けた駐車マスの整備を推進するとともに、後続車無人隊列走行の実現を見据えた新名神高速道路の6車線化を進めるなど、高速トラック輸送の効率化に向け様々な取り組みを進めてまいります。

SA・PAにおいては、「新しい生活様式」の一環としてキャッシュレス決済の拡充を進めています。また、子育て応援として、ベビーコーナーの整備を推進するとともに、液体ミルクの販売を開始しました。今後は、デジタル技術の積極的な活用や地域とのさらなる連携強化により、顧客体験価値を重視したサービスの提供をめざしてまいります。

高速道路のメンテナンスにおいては、インフラ長寿命化基本計画等にもとづき、橋梁などの対象施設の点検をすべて完了し、順次計画的に修繕工事を実施しています。また、法定点検は5年に1回のサイクルとされており、2019年度からは2巡目となる点検を開始し、高速道路の安全・安心を届けてまいります。

頂戴したご提言を踏まえ、グループ理念である「私たちはリスクマネジメントを徹底し、高速道路の安全・安心を最優先に、お客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与することにより、社会から信頼され成長する企業グループをめざします。」の実現をめざしてまいります。